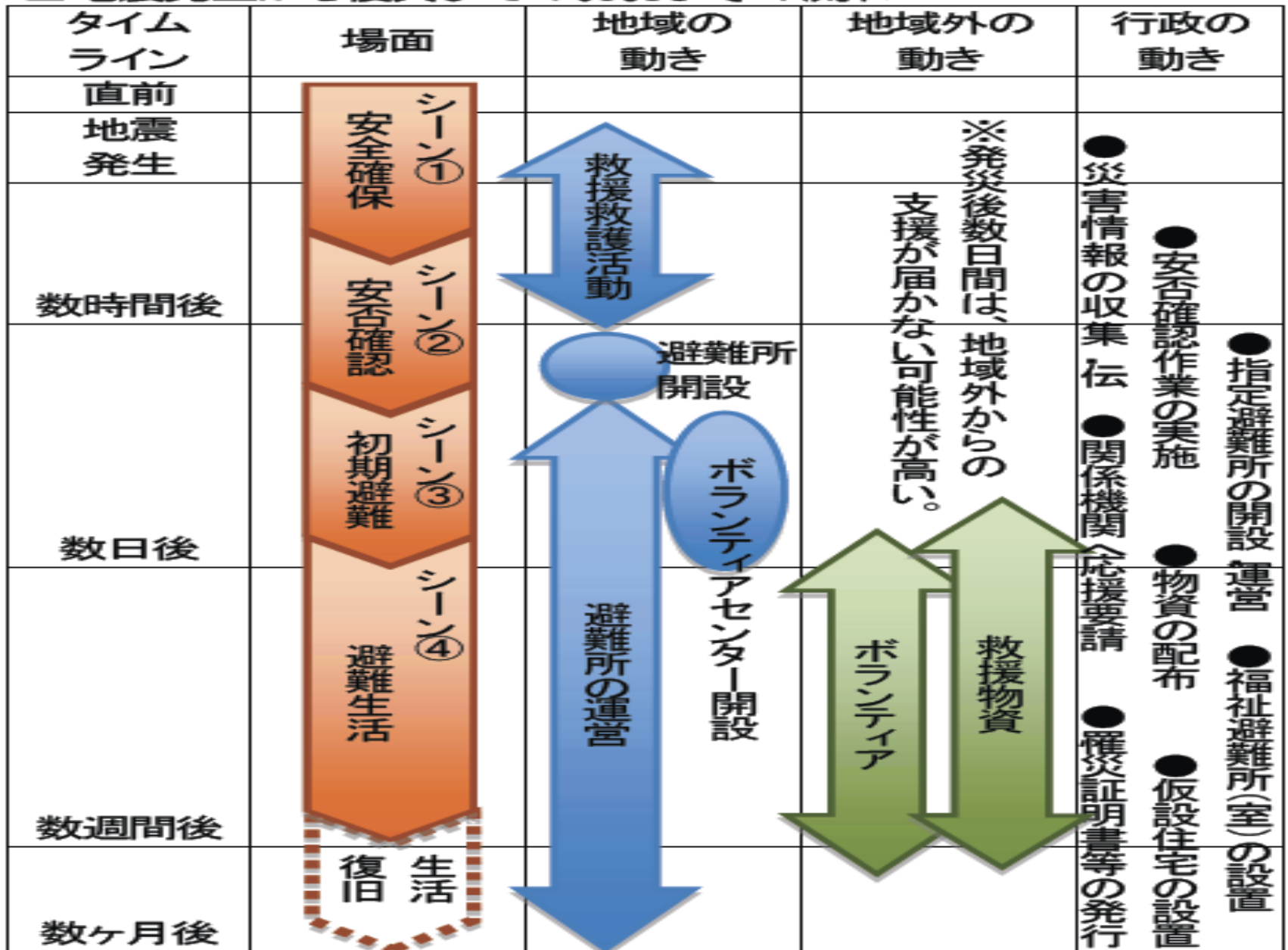


「医療的ケア児の福祉避難所の立上げ」
～熊本地震の支援を通して感じたこと～

戸枝 陽基（とえだ ひろもと）
NPO法人 ふわり
社会福祉法人 むそう 理事長

感想など、こちらまで。
全部読みますが返信できないこともあります。
とえだ Email hiromoto@toeda.org

■地震発生から復興までのおおよその流れ



<参考>周産期・新生児医療体制の現状・課題

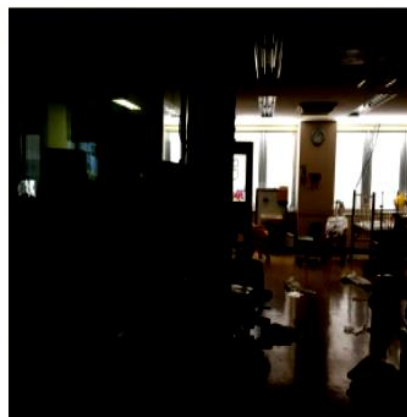
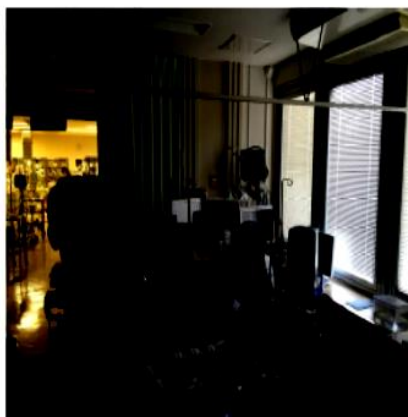
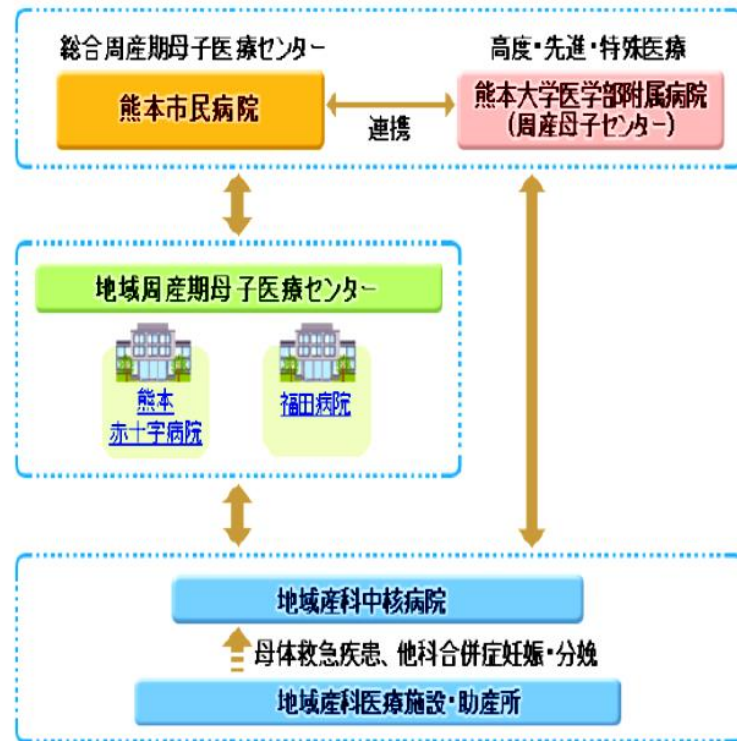
地震の影響で、市民病院の入院機能が停止しており、熊本県の周産期医療体制が脆弱になっている。（地震前42床で受入れ→現在0床）

市民病院の周産期医療センター体制をバックアップし、妊産婦死亡の予防や低体重児・未熟児の体制が、建替え等までの期間（中期的に）必要。

・新生児学会が寄付を募り、市民病院をバックアップするために、4つの病院（熊本大学病院、福田病院、久留米大学病院、聖マリア病院）に、それぞれ1名、1週間交代で医師を派遣する。

・受入れ病院での機器整備が必要となる。＜体制が固まり次第、順次、機器整備＞

・ベッド、呼吸器などの移設は可能。



※ 5月1日現在の市民病院の総合周産期センターの様子



災害時の4つの支援

- 物の支援（命をつなぐ物と損失補償と）
- 金の支援（義援金・支援金）
- 暮らしの支援（緊急時と復興に向けてと）
- 心の支援（心的外傷などへの寄り添い）

ニーズと対応策

	難易度	ニーズ	マンパワー	対象者	費用	ハード	その他	24日	メモ
						・B&G ・エアーテント ・恵風園 ・九品寺 ・車20台			・4月29日～5月9日までのボラの飛行機を手配 ・財団→ガリバーの車?
1	**	入院付き添い代行 (帰宅に向けた家族支援) ※急ぎ!!	・看護師 ・医ケアができる介護職 →外部職員	・入院中の医療ケアが必要な子どもに付きっきりで自宅の片付けが終わっていない方	・看護師(/日) ・介護職(/日) ・車 (/台)	・病院内			・支援に必要な義援金をどうするか (対象の方への義援金・支援者への義援金)
2	*	家の片付け支援 29日～9日に片付けを終わるプロジェクト(GW)	・ボランティア(大学生等)	・自宅が地震の影響で散乱している方	・車 (/台)	・各家庭(ボラの宿泊施設必要)	ネクステップ (ゴールデンウィーク) ・熊大医学部 ・たんぼぼの会 ・熊本保健科学大学 ・日本福祉大学(10名)		対象者数件になってきている。
3	*	物品配達支援 医ケアに必要なもの 日常不足するもの(短期)	・ボランティア(大学生等)	・避難所、在宅の物品が足りない方 特殊な物品がない方	・車 (/台)	・ボラの宿泊施設 ・物品倉庫(松葉佐先生のところが今はやっている)			4月9日～5月9日までのコーディネートの大量のゴミはどうする? →社協にお願いする?
4	***	訪問診療代行 訪問看護代行 訪問介護代行 ※継続するもの	☆市民病院チーム(内部障害チーム) ・医師、看護師、医ケアに強い介護職	・内部障害、重度医ケア児	・医師 (/日) ・看護師(/日) ・介護職(/日) ・車 (/台)	・緒方先生チーム			
5	**	病院等家族支援 兄弟支援 (休み時のみの短期の支援)GW	・保育士等 ・ボランティア	・入院中、避難中で、両親が働いている家族の子ども	・保育士(/日)	・遊ぶ場所 ・広い室内	・ネクステップ ・おもちゃ等 ・給食		再春荘に相談 一か所に集める感じではなく、何か所かに数人でできると良い
6	*****	医療的ケアの方向け 避難所	・できれば医師 ・看護師 ・介護職 ・ボランティア	・自宅が崩壊して帰れていない医療ケアある子どもとご家族	・医師 (/日) ・看護師(/日) ・介護職(/日) ・車 (/台)	・家族が生活できる施設	・在宅になるのか?		すぐでも始める。緒方先生のクリニックのすぐ近くにあるところ借りるか。
7		ニーズ調査 健康評価 (初動)							
8		オペレーション機能 (初動)	相談支援者 ・医療側 ・福祉側	・医療ケア、内部障害等で困っている方	・医療側(/日) ・福祉側(/日)	・事務室 ・電話(NHKが宣伝)			梶原さんとマネジメント方法考える

8. オペレーション機能案

震災直後の緊急を要する状態から、生活再建フレーズへと状況が変化する中で、一時的な預かり等により、家族に被災した家を片付ける時間や、休息时间、手続き等を行う時間などが必要になり支援を開始している。生活再建能力が弱い家族(片親家庭などにより被災した家を片付ける人手がない、医療的ケア児等への対応に疲労している状態、兄弟児への対応など)は、それらの時間を確保しずらく益々疲労がたまっていく。ニーズをとりにいき、把握をし、必要な支援を継続的に届けられるようにする必要がある。そのためのセンター機能が必要。

また、長期の支援が予想される中、この病院と在宅の橋渡しを果たすマネジメントセンターが機能することで、震災をきっかけにこれまでの地域課題となっていた医療的ケア児に対する相談支援機能をエンパワメントをし、医療的ケア児への震災後も長期に渡り継続した支援ができるよう組み立てる必要性が出てきている。

熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会

会長：緒方先生、世話人(熊本の開業医・様々な病院小児科医師)45名ほどの組織
(緒方(開業)・松葉正(重心守る会)・小篠(熊大)・杉野(開業)・近藤(市民病院)・島津(再春荘病院・ネクステップ)・・・他)
月1回開催

熊本小児在宅ケア研究会の医師が所属する病院等の職員を中心に、各役割を果たす人材(在宅医療、地域医療を知っている医療者、在宅福祉を分かっている福祉人材)を地域より集め、センター化する。

地域連携支援拠点機能(熊本大学にて)

直接支援は熊本市内南部にデイサービスと訪問介護事業を創設するのが理想

医師：小篠先生(熊本大学)

看護師：森さん(福田病院)※要確認

鋤田さん(市民病院)

福祉：上田さん

(おがた小児科内科医院・理学療法士)

熊本市内の福祉の相談支援員と連携

学校：特別支援教育コーディネーターから

事務員：熊本大学から

* 森さん：現在福田病院所属。春までコーディネーター事業を熊大で行っていた。福田病院に出向依頼出来ないか？

* 熊本大学付属病院の小篠医師が熊本大学に研究室を持っている。そこを8月から事務所として使用可能とのこと。

病院と在宅の橋渡し

医療 ↔ 在宅
医療 ↔ 患者
医療 ↔ 福祉
医療 ↔ 学校
学校 ↔ 福祉

子ども子育て支援

緊急対策支援（医療ケアが必要な子ども関連）



医療的ケアが必要な子ども・家族の支援（専門職派遣）

3, 136万円<概算>

■支援概要

- 人口呼吸器、たんの吸引など医療ケアが必要な子ども等が、県内外の病院や療育センターに一時的に避難している。また、避難所、車中泊の家族も財団先遣チームで確認されている。
- 医療的ケアが常時必要なため、自宅損壊確認や、自宅復帰作業が困難な状況となっている。
- 熊本小児在宅ケア・人工呼吸研究会を中心に、①子どもをケアするチーム、②親をサポートするチームの体制を整え、自宅復帰支援を行う。
- 医療、介護、保育職が、親の代わりに医療ケア、子どもの療育を行い、同時に看護、介護職が親とともに自宅復帰準備を行う。
- 3ヶ月をメドに、医療、看護、介護、保育の専門職の派遣を行う。
 - ①医療ケア、内部障害等で困っている方々の相談支援
 - ②入院中の子ども、避難している子どもの医療ケア（付添い）支援と帰宅に向けた家族支援
 - ③子どもの療育支援と親のレスパイト（一時的休息）支援
 - ④在宅生活を支える訪問診療、看護、介護の実施

■期間：

- ・3ヶ月

■予算（概算）

3, 136万円

- ・人件費 1, 800万円
- ・移動経費 850万円
- ・拠点経費 486万円

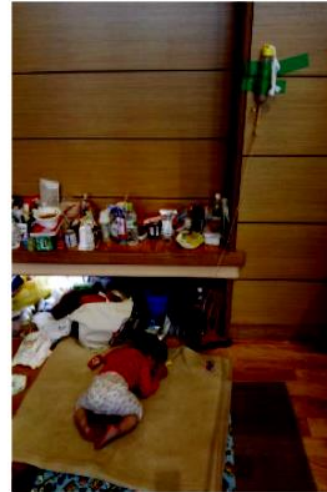
■体制

熊本小児在宅ケア・人工呼吸研究会

緒方（開業医）、杉野（開業医）、近藤/川瀬/鋤田（市民病院）、島津（再春荘病院・ネクステップ）、小篠・岩田（熊大病院）、戸枝（むそう） ※敬称略

■対象児（重複・もれあり）

- ・医療ケアが必要な子ども（127人、うち超重症は47人）
- ・市民病院の患者（酸素60人、人工呼吸器9人、複数合併47人）
- ・熊本大学病院入院（62人）
- ・障害者手帳受給児、手帳の範囲に入らない子ども



避難所の壁に胃ろう機器をつける

熊本医療的ケア児福祉支援拠点の常設へ！

ネクステップ(合志市):入浴場の提供
(ネクステップ利用者のいない時間)

熊本北部まで
20分
熊本中央部ま
で40分

おがた小児科内科クリニック
入浴サービス

熊本中央部南部(被害の大
きい地域)に拠点が
ない

氷川町
レスパイト仮避難所

熊本南部まで
40分
熊本中央部ま
で1時間

【現在実施している支援】

- ①帰宅に向けた家族支援
- ②家の片づけ支援
- ③医療的ケアの方向け避難所
- ④病院等家族支援、兄弟支援
- ⑤物品調達支援

- ・児童発達支援
- ・放課後デイサービス
- ・訪問介護
- ・訪問看護
- ・移動支援
- ・レスパイト
- ・ショートステイ など

地元の
継続する
支援へ

熊本医療的ケア児
福祉支援拠点機能

制度を活用した暮らしのイメージ

時間	0~6才	6~18才	6~18才	(0~)6~18才	18才~	18才~
:						
7:00		居宅介護	居宅介護	訪問看護	居宅介護	共同生活 援助
8:00		通学	通学	通学	生活介護	生活介護
9:00	訪問看護					
10:00	児童発達 支援					
11:00						
12:00						
13:00		放課後等 デイサービス	訪問看護	短期入所 (ショート ステイ)	移動支援	共同生活 援助
14:00		訪問看護				
15:00		訪問看護				
16:00	居宅介護	訪問リハ	移動支援			
17:00	居宅 訪問型 保育 児童発達 支援					
18:00				訪問看護		
19:00						
20:00					訪問看護	
21:00						(グループ ホーム)
22:00						
:						

知的障害児でもない 重症心身障がい児でもない

家族介護を基本に、医療デバイスや薬をもらうために外来のみ医療機関と繋がる、または医療機器などの利用で業者とのみ繋がっている、現状福祉サービス利用者になりにくい子ども達が、熊本の災害の安否確認・福祉的支援対象から漏れていたという事実をどう考えるか？



「医療的ケア児」は、既存の制度で網羅される子どもではないことを前提に定義する必要があるのではないか？